

# 【公開用】

## 第5回

### 上野地区まちづくりビジョン推進会議

日時：令和7年1月30日（木）

10:00～11:55

場所：台東区役所10階 1001会議室

午前10時00分 開会

1 開 会

2 座長選出

3 座長挨拶

4 議 事

(1) これまでのビジョン推進会議の振り返りについて

○座長 それでは、議事に入ります。

最初に、「これまでのビジョン推進会議の振り返り」から、よろしくお願ひしたいと思ひいます。

<事務局より【資料1】について説明>

○座長 ありがとうございます。

ただいまの振り返りに関して何か御質問やら御指摘があれば頂きますが、いかがでしょうか。——よろしいですか。

ここにあるとおり、まちと杜とをつないでいこうということで、様々な活動が今行われているということでございます。

(2) 上野地区まちづくりの進捗状況について

○座長 それでは、その具体的な進捗状況について報告を頂き、また意見交換をしたいと思ひいます。よろしくお願ひします。

<事務局より【資料2】について説明>

○事務局 それでは、資料2「上野地区のまちづくりの進捗状況について」を御覧ください。

2ページを御覧ください。これまで上野地区では、「ターゲット10+」の設定及び各空間の在り方の検討、情報一元化に向けた検討、まちづくり活動の進捗管理・共有を行ってまいりました。一方、杜まち連携カレンダーの作成に関する具体の検討など、検討の深度化や実効性確保の点で課題が見えてきたところがございます。

3ページを御覧ください。これらの課題を踏まえまして、地域のまちづくり活動を応援する、下支えするための仕組みづくりに向けまして、官民連携による上野版エリアプラットフォームとなる「(仮称)わっしょい!杜まち応援団」について検討に着手したところがございます。

4ページを御覧ください。こちらは杜まち応援団の全体像のイメージとなっております。まちづくり推進部会での議論を踏まえまして、まちづくり活動における困り事を杜まち応援団が解決しながら、まちづくり活動を支援していくイメージとなります。詳細の機能などにつきましては、今後まちづくりの担い手の方々と検討してまいりたいと考えております。

5ページを御覧ください。まちづくり推進部会と上野版エリアプラットフォームの役割分担を整理したものでございます。まちづくり推進部会は台東区が事務局となり、杜まち連携やエリアマネジメントの推進に関するパブリックスペースの在り方、利活用の考え方、マネジメント体制についての検討、また情報共有を行っておるのに対しまして、杜まち応援団は、区を含めたまちづくりの担い手が、官民連携で地域のまちづくり活動を支援するものでございます。

6ページを御覧ください。短期及び中期の活動イメージとなります。杜まち応援団を立ち上げてから3～5年程度は、現在のまちづくりの担い手を対象に支援を行い、実績を積み上げていきたいと考えております。その後、初期段階の実績を基に、上野で挑戦したい新たなまちづくりの担い手も対象に応援していきたいということを想定しております。

7ページを御覧ください。今年度及び来年度につきましては、準備会といたしまして、まちづくりの担い手の方々へのヒアリングを通し、体制などを検討してまいりたいと考えております。その後、まちづくりの担い手の方々とワークショップなどを行いながら具体的な支援方法を検討し、令和8年度以降、杜まち応援団を立ち上げられるよう検討を進めていきたいと考えております。

以上が上野版エリアプラットフォーム検討の御報告でございました。委員より補足説明等がありましたらお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

○委員 上野版エリアプラットフォームについて、今説明があったとおりではあるのですが、まち部会と実際のまちづくりの担い手のグループというのも別途いますので、エリアプラットフォームが屋上屋にならないように、あるいはまち部会が屋上屋にならないようにということに留意をしながら、先ほど説明のあったような役割を分担していきます。概念としては、うまくいけばいいなどは思っているのですが、これを実際にきちんと機能するためには、恐らくまだこれから様々な工夫が必要かなと思っていますので、それはやりながら、考えながら知恵を集めて、うまく機能させられればなと思っています。

以上です。

○事務局 ありがとうございます。

続きまして、8ページを御覧ください。2022年度に設立いたしましたワーキンググループ UENO Bridge につきましては、杜まちの関係者で構成され、杜まち連携に係るアイデア抽出と具体的な取組を検討することを目的に活動しております。これまで計12回のワーキングを開催いたしまして検討を進めてまいりました。

9ページを御覧ください。今年度より、サロン形式で各々が取組や関心事を持ち寄ることで、考え方や思いが共有される機会が増え、活発な意見交換につながっております。本日は UENO bridge で議題に上がっているアクションアイデアを御紹介いたします。

10ページを御覧ください。こちらは「上野パンダパレード」というプロジェクトになります。上野がもっとアートなまちと認知されるには、分かりやすい・身近に感じるアートですとか、映える・思わず撮影したくなるアートが必要ではないかという課題認識から発案されたアイデアでございます。3体のパンダをモチーフにデザインを広く公募し、審査会を経て優秀作品を上野地区全体に設置するものとなります。応募段階では、子供から芸術に関わる方まで幅広い層の表現の場となり、設置後は様々な方がパンダを求めて杜とまちを回遊する光景が生まれることが期待されます。今後につきましては、ワーキンググループで本企画案を深度化していく予定でございます。

11ページを御覧ください。こちらにつきましては、委員より「UENO 杜まちデジタルスタンプラリー」について御紹介いただきたいと存じます。委員、よろしく願いいたします。

○委員 去年から1年をかけて、デジタルスタンプラリーという形で、いろいろなイベントを企画しているところです。大きな用紙でカレンダーが皆様の前にあると思うのですが、このようにして今上野ではいろいろなイベントが開催されているということがありますので、それをどのようにして表現していこうかという中で、この furari というアプリケーションを使ったデジタルスタンプラリーをすれば横串を刺せるのではないかということで始めたのが、この「UENO 杜まちデジタルスタンプラリー」になります。

第1回目が5月の上野ミュージアムウィーク、国立博物館の日ということで5月18日が博物館の無料の日なのですけれども、そこからスタートして、いろいろな上野の中で行われているイベントを子ラリーとして開催してきました。スタートでやった「上野ミュージアムウィーク」は979名の方が御参加いただき、その後、上野観光連盟でやった「うえの夏まつり」、こちらが1,509名、そして夏の「ビアフェス」429名、そして「文化の杜」、これは俳句イベントですけれども、357名、「ウエノデ.パンダ中秋節」ということで436名、上野観光連盟の「Peace of Light」が286名、「シタマチ.ハロウィン」が888名、上野広小路ヒロバ化社会実験で376名、12月にやったクリスマスマーケットが572名、今現在進行中の合格祈願ということで447名ということで、次のページを見ていただくと、3,971名の方が上野でやるスタンプラリーに参加していただいているということになっております。今まで申し上げたラリーが、子ラリーという形で下にひもづいていまして、親ラリーがここにある「UENO 杜まちふらり」という形になっております。小さな子ラリーが全部集まって、親ラリーのほうでフォロワーという形で今3,971名の方がスタンプラリーを通して上野に来ていらっしゃる、もしくはスタンプラリーに参加していただいているという状況になっています。

このデジタルスタンプラリーのメリットは何かということですが、このフォロワーの方たちに、次にやるイベントをプッシュ通知という形でお知らせができるというのは一つ大きなことかなというのが1つです。そして、ここに書いてあるとおり、デジタルでの展開ですので、いろいろな分析ができるということになります。今までイベントをやっても、男女比だとか、どこから来たのか、どんなアンケートでということが、アナログの部分でやっていたものですから、それがデジタルベースに落とされるということは、かなりメリットなのかなと思っております。下のほうにはアンケートの結果ということで、満足度、どこから来たのか、誰と来たのか、今後の予定というようなものも分析できる状況です。

このアンケート内容は、我々が戦略的に何か知りたいことがあれば、当然そのアンケー

トという形で落とし込むことができるので、3月の桜のお祭りを最後にして1年が終わるわけですが、まだまだ分析というところまではたどり着いていない。ただ、フォロワー数は大分増えてきた。この春の桜まつりで、さらにフォロワーを増やし、まずは1年間で1万人というところを目指していく。この1年で集まった1万人のフォロワーに対して、また来年プッシュ通知をしながら人数を増やしていくということをすれば、もともと上野というのはお客様が多いのですけれども、このデジタルスタンプラリーを使っただけで新たな層を増やしていくことができる。増やしたところには、このような形でデジタルでの分析ができるということですから、これを一つの武器としてまた戦略を立てていくということが、このデジタルスタンプラリーでできればいいなということを今やっている最中です。

以上、報告となります。

○事務局 ありがとうございます。

それでは続きまして、13ページを御覧ください。こちらからは上野地区のウォークブルまちづくりの状況を御紹介いたします。「ターゲット+10」に今年度実施された様々な取組を示しております。後ほど東京メトロ様より御紹介いただきますが、東上野四丁目における「アートペイント」を踏まえまして、東上野四丁目をこちらの「ターゲット+10」にこのたび追加をしております。

14ページを御覧ください。こちらの「上野広小路ヒロバ化社会実験」につきましては、主催をされました上野まちづくり協議会様より御紹介いただきたいと存じます。委員、よろしく願いいたします。

○委員 上野まちづくり協議会でございます。資料に沿いまして御説明させていただきます。

14ページをお開きください。このヒロバ化計画というのは、我々まちづくり協議会が考えています上野広小路を含めて上野の公園、寛永寺から始まる歴史的、位置的、構造的、そして精神的な象徴性も再構築しながら、まちづくりの課題解決と新たな価値創造を目指すというプロジェクトでございます。

回遊性というところで長く課題でございますけれども、それを実現するためにヒロバ化、広小路が江戸時代にもともとそういう場所であったという歴史性に鑑みまして取組を始めしております。台東区さんの共催を得まして、また、ここにいらっしゃいます委員の御指導をいただきまして、まず昨年度、15ページの左側でございますけれども、11月26日

に京成上野駅前130mの距離を、時間も少し短く12時30分～15時30分、通行止めにしたということです。以前ここの中央通りは歩行者天国をやっていたわけですが、かなり久しぶりに車を止めて、車の通らない中央通りというものが現出しました。ただ、あいにく天候が冷たい雨というところで、また、あそこはガードレールがありますので、人が車道に出てたたずむとか、そういった風情は見られないまま終わりました。しかしながら、車を止めたということにより人や車の動きにどんな変化があったということの影響について、実験時と1週間前の平時の調査をしました。

今年度ですけれども、昨年10月27日に、今度は時間も長くしまして、14時～20時まで行いました。中央通りの秋葉原で毎週歩行者天国をやっていますけれども、それは17時に終わります。終わった後の交通量の動向等も調査したいということもありまして、時間を延長して開催しました。場所を移しまして、JR上野駅の広小路口と不忍口の間、丸井からアメヤ横丁の入り口のところまでを通行止めをしました。「「えきとまちの回遊性向上」の懸け橋とする」という目的にさせていただきました。

ページをおめくりください。昨年と違いまして、右のページにごぎいますように、この空間に30以上のテントと2台のキッチンカー、ここにミニアメ横村を表現しようということで、アメ横商店街の多くにお店を出していただきました。そしてマルイさんからも何店舗か出ていただきました。右の上のほうに「藝育会」と書いてありますけれども、この協力を得まして、ライブペインティングということでアーティストがお客様の目の前で絵を描くというイベントがありました。それとマルイさんの前の歩道橋を下ったところにイベントスペースを得ましてライブ演奏をいたしました。写真を御覧になると一番分かりやすいのですが、以前の歩行者天国を彷彿させるような右側にテントが並び、人工芝には途中から座って談笑するような方が見えたり、椅子・テーブルもいつも誰かが座っているというところで、新たなビッグイベントスペースがここに創出されたという感じがしました。

私もずっといきましたけれども、イベントを幾つか商店街でもやってきましたが、こんなに参加者から声をかけられて「これは誰がやっているの?」とか「いいね」とか、こんなに褒められたイベントはないので、ここはイベントスペースとしてやろうとしていたわけではないのですが、結果的にこの1日については、後ほど紹介もありますけれども、この時期に観光連盟で「Peace of Light」をやっていたり、中央通り商店会主催でハロウィンのイベントがあったりということで、祝祭感にあふれた上野ができました。右下は夜

間の音楽演奏時の様子ということで、夜20時までやりましたので、暗くなっても人がこれだけ滞留している状況でございます。上野駅から出てきたお客様、アメ横六丁目から上野駅に戻るお客様は横断歩道を渡るわけですが、こういうお店があったり、音楽スペースがあったりすると、東西だけではなくて南北の動きが生まれたということが見てとれます。

次のページをお願いしたいのですが、もちろん本来の趣旨である交通量調査を今年もしました。昨年と同じように、交通量そのものが増えたところは地点4ということで、春日通りと昭和通りの交差点だけが若干増ということです。道路のキャパから言って、何か混乱が起きるようなところはなく、全体にしては交通量に関わる問題はほとんどなかったと言えます。

次の19ページは、先ほども紹介がありましたけれども、令和3年の交通量調査と比較しての数字でございます。道路交通量そのものは漸減している状況が今回も続いているということが見てとれると思います。

次のページをめくっていただいて、これはいわゆる需要率ですが、もちろん大きな混乱なく、需要率に比べると圧倒的な差が見てとれると思います。この辺のところは、また詳しく結果を御覧になっていただきたいと思います。

人流調査については、先ほど委員が説明した「furari」という仕組みをつくりまして、スタンプポイントをやることによって、ポイントでのデータが取れるので、それを時系列に並べると、その人がどのポイントからどちらへ向かって、ちゃかちゃか歩いていたのか、ゆっくりたたずみながら動いたのかといったことも取れる仕組みなので、今このデータを集めまして委員のほうで調査中です。まちづくり協議会の2月の例会で、その調査結果を発表しようとしております。まだ正確にはできていないので御報告できないのですが、人流調査ということも併せてやっております。ハロウィンもやっていたので、どんな方が、どんな形で、どのぐらいの時間滞留したかということも見られるかなと思っております。

以上のような2回目の実験で、昨年とは打って変わって一大イベント空間の創出ということになるかもしれないのですが、駅前にもこういう空間ができると、マルイさんのほうから見ると山も見えますので、本当に居心地のいいウォークアブルな空間ができるのだなということで勇気づけられた気持ちでございます。

最後でございますけれども、22ページ。そもそもここは上野駅前から広小路という松



坂屋さんの前の交差点のところまでの計画でございましたので、残りの1区間として今年の秋に、詳細、規模についてはまだ決まっておられませんけれども、東京都さんや上野警察さんの協力も得て、御相談させていただきながら3年目の実験をし、その3年間の結果をまとめて、ウォークラブルなまちづくりという視点から、このエリアをどういうふうにするべきかということをもとめたいと思っている次第でございます。

以上、報告でございました。

○事務局 委員、ありがとうございました。

こちらの上野広小路ヒロバ化社会実験につきましては、委員にも大変御尽力を頂いておるところでございますが、これまでの取組、それから今後の展開につきましては、委員より御意見を頂戴したいと存じますけれども、一言よろしく願いいたします。

○委員 今回の上野広小路ヒロバ化社会実験の実行委員長を務めさせていただきました。

今、委員からありましたように、昨年度と今年度で延長130mが140mになった。道路の延長はそれほど変わらないのですけれども、たった100m、信号1区間移るだけで、こんなにも人の流れが変わるのかということで、改めて公共空間の再配分の実験といったしましては、とても手応えを感じたところがございました。そして時間につきましても、3時間を6時間に延長するというのは、運営上もいろいろハードルが上がったのですけれども、去年の経験を生かしまして、うまく乗り切ることができたのかなと思ってございます。

また、前回の実験は都道の一部を使わせていただくという形だったのですけれども、今回は140mのうち半分が国道でございまして、都道と国道とそれぞれに協議をさせていただきまして、使わせていただくということが実現いたしました。両方に共通するのですけれども、このような交通社会実験をするときには、右折のコントロールが非常に難しい。これは上野だけでなく、どこへ行っても右折を制する者は交通社会実験を制すると言ってもいいぐらいで、上野においては昭和通りからの右折、ここをどうコントロールするかということが非常に肝だということで、昨年度の上野警察さん、そして警備会社の皆さんとの連携で、そのポイントを理解した上で今年度の取組にも生かした次第でございます。

コンテンツに関しましては、今年は地元のアメ横商店街連合会、上野六丁目商店街連合会、上野マルイさん等をはじめとする地元の方々に御出店いただきまして、30区画用意したのですけれども、それを瞬時に埋めていただきまして、地元のお店が道路上に並ぶということで、上野らしい雰囲気というのが醸成されたように思います。その雰囲気という

のは、SNS等を見ているにもかかわらず非常に効果があったかなと思うのですけれども、これに関しましては、昨年度、筑波大学の委員の研究室のほうで調査されたときに、上野が好きな層というのは中頻度来訪者、そして上野が求めるべき回遊性の高い層というのは、買い物をするとか、友達と会うとか、そういった雨天時でも比較的来訪をやめない方であり、そしてこのあたりに滞在される方が回遊される場所はアメ横周辺というのが圧倒的に高い、そういう調査結果がございました。ですので今年度は、まずアメ横、六丁目、中通商店会も含んで連携するということ、そして買い物の目的に対応するということ、そして20～30代のカップルをターゲットにするということ。これらの狙いをはっきり定めまして、その狙いに関しましては、ある程度手応えを感じたところでございます。

今年度の調査をしていただいておりますので、この結果はまた来年度に生かしたいと思っておりますが、今後に向けて少し政策につなげていく論点といたしましては、1つは、実行予算というのは、今回、全体といたしまして約900万円掛かってございます。その大半が警備費用、そして協議のための様々な事務的な費用でございます。今後、空間の構造がもっと簡単にこうしたことができる構造であったら、例えばいつでも交通封鎖ができるような道路構造であったら、例えばテントとか家具とか電源設備というのは、30店舗あったら30台の電源を借りなければいけない。テントも30台、机も30台要るのですけれども、すぐ裏に倉庫があって30分で設営できますよという体制があったら、これをいわゆるエリアマネジメント体制、最近の地方都市では、例えばJR九州さんなどは駅前にそういった体制を組んでいらっしゃいますけれども、30分でマーケットができる、30分でイベントができる。もしそういう体制ができていたら、100万円ぐらいでこれができる。そうすると30店舗あったら3万円の出店料で賄ってしまう。そういう構造になっていくのですけれども、こういう公共空間の使い方ということに関して、もう少し具体的な検討が、上野においてどういう可能性があるかというところを協議会の中でも今議論を始めておりますし、今後、各行政の皆様とも議論をして、どうしたらこの上野の公共空間のポテンシャルというものを基盤という観点から上げていけるかということで御提案申し上げたいと思っております。

私からは以上でございます。

○事務局 委員、ありがとうございました。

続きまして、23ページを御覧ください。こちらはパンダ橋活用実験についてでございます。上野公園と駅の東側とを結ぶパンダ橋につきましては、JR東日本様が管理してお

る上野駅の駅施設の一部でございますが、杜とまちの回遊拠点として子供から大人まで多様な方が利活用したくなる場所として活用できるよう、令和4年12月よりJR東日本様と台東区で活用実験を行ってまいりました。活用を通しまして、安全性や集客性を確認するとともに、新しい使用ルール案の策定やパンダ橋らしい活用方針案の策定を目指すなど、継続的な幅広い利活用を目的とした実施・運営体制を構築し、将来的により多くの皆様に利活用いただける状態となるよう検討を進めております。

24ページを御覧ください。昨年10月に実施された「パンダバシピクニック」の様子を、こちらは主催をされましたJR東日本様より御紹介いただきたいと存じます。委員、よろしく願いいたします。

○委員 今御案内いただきましたパンダ橋の活用実験でございます。記載のとおり、今御説明もありましたけれども、当社主催で台東区さん、それから弊社のグループ会社並びに地元の高校等において、共催であったり、協力ということで、連携して今回の「パンダバシピクニック 2024 Autumn」と銘打ちまして実施いたしました。

実施期日につきましては、記載のとおりでございます。10月26日（土曜日）、27日（日曜日）というように、日曜日についてはヒロバ化の期日とほぼ同様の時間帯にて実施したということで、昼から夜半に入るぐらいまでの時間、19時ないし18時までという時間において実施したということでございます。秋の実施と、比較的天候の落ち着いている時期ということもございましたので、右下のほうに4枚ほど写真がございますが、晴天ということではないですけれども、曇天というような形で、イベント実施の時間には、ほぼほぼ雨に降られずというようなことで、イベント日和だったのかなと認識してございます。

具体的な実施内容については、上の四角囲みに記載のとおりでございます。地元のクラフトビール等のアルコールを含むドリンク・フードの提供でありますとか、時計づくりのワークショップですとか、鉄道というようなことでトレインシュミレーターですとか車内の切符販売体験等々、また地元高校ということで岩倉高校のダンス部におけるダンスパフォーマンスの上演等々を実施したということでございます。

イベント自体ですけれども、午前には駅から杜のほうに向かわれる方ですとか、夕方は逆に杜のほうから駅に向かうといった方が、ある意味通りかかるような形でイベント等を御覧いただいたような動きが中心だったのかなと思います。そうした中で、比較的目的性の高いワークショップですとか、トレインシュミレーター、また地元高校のダンス部の表現

の場といったこともございましたので、そういった内容については好評だったのかなと思っております。

今回5回目となりますけれども、先ほど23ページで御説明いただきましたように、杜とまちをつなぐエリアということで、地域の回遊性を高めて広域連携の取組として今後も台東区と連携して取組を進めてまいりたいと思います。

雑駁ですが、私からの報告は以上でございます。

○事務局 委員、ありがとうございました。

続きまして、25ページ及び26ページを御覧ください。こちらは9月6日及び7日に、上野公園北部エリアにおきまして、エリア内外の回遊性向上を目指し将来像を検討するまちづくりイベントを、台東区主催で当エリアの各施設と連携して実施したものでございます。エリア内の都道及び区道の一部の車道を歩行者に開放いたしまして歩きやすい環境を創出するとともに、「つながる・ひらく」をテーマに各施設の新たな利活用やまち歩きツアーを実施するなど、新たな回遊づくりを行いました。今後は、まちづくりイベントを踏まえまして、エリアの関係者や地域の方々と具体的な将来像をさらに議論してまいりたいと考えております。

27ページを御覧ください。こちらは台東区都市計画課で実施いたしました二次交通の実証実験の様子でございます。上野地区におきましては、先ほどの上野公園北部エリアまちづくりイベントの日も含めまして、計12日間、上野公園内と北部エリアをつなぐ1周約80分を、歩行のアシストとなるグリーンスローモビリティを運行いたしました。

28ページを御覧ください。実証実験のアンケートの速報結果を掲載しております。乗車満足度は9割程度と高くなっております。地域の利便性・魅力向上に資する可能性があることを確認いたしました。また、有料の場合の支払意思額につきましては、ガイドなしの場合は100円が約40%と最も高い割合だったのに対しまして、ガイドありの場合は201円～500円が約45%と最も高い割合となっております。今後は本実証実験の詳細分析等を踏まえ、新たな交通手段導入に向けた検討を深度化する予定でございます。

29ページを御覧ください。こちらのアートクロス整備につきましては、文化の杜新構想実行委員会より御紹介いただきたいと思います。オブザーバーよりよろしく願いいたします。

○オブザーバー 今この部分を整備してきていまして、もうすぐ完成になります。今の予定ですと3月10日頃ということで、3月のどこかの時点で完全にオープンにできると思

います。

この場所というのは、御存じかと思えますけれども、藝大と東博の間の交差点のところですが、上野公園の中で一番歴史的な建造物が集まっている特別な場所なのかなと思っております。東京国立博物館の黒田記念館、東京藝大の正木記念館と陳列館、そして京成の旧博物館動物園駅というのが、ちょうど交差点を挟んだ形にありまして、この建物類はみんな昭和初期のものでございますけれども、その後、旧東京音楽学校の奏楽堂が移築されてきたということになっています。この建物自体は重要文化財です。ですので、何となく歴史的なものが固まってきた場所なのではございますけれども、そういう流れの中で真ん中にトイレが造られているということが起こってございまして、そのトイレをなくして、広場をできるだけ、それぞれの建物が見えるようなオープンな形にして、そこで何かイベントなどができるような形に持っていこうということ、この地区の御近所さんといえますか、東京国立博物館さん、都美術館さん、台東区さん、東京藝大、子ども図書館さん、そのあたりで協議しまして――4～5年前になりますけれども、それで大体方向性をつくって進めてきたものです。ハードの部分については今年度にほぼ完成をしますので、これからは、ここをどういうふうに運営していくのかというマネジメントの方向を検討していくことになるかと思っております。これは東京都東部公園事務所さんと台東区さん、またそこに文化の杜も入って進めていければと思っております。

以上になります。

○事務局 オブザーバー、ありがとうございました。

続きまして、30ページを御覧ください。こちらからは短期施策以外のパブリックスペース等における各取組の御紹介となります。

30ページでは、10月25日～27日に袴腰広場におきまして「シタマチ、ハロウィン2024」が中央通り商店会様主催で実施されました。こちらにつきましては、委員より御紹介いただきたいと存じます。よろしくお願いたします。

○委員 こちらは上野中央通り商店会の商店会イベントとして、去年は9回目、6つの商店会が共催でやっている事業です。1,000人近くの子供たちが仮装してお菓子をもらいに上野で「トリック・オア・トリート」をするという形で、その日一日はハロウィンの格好をした子供たちが集まるような感じで楽しくやっているわけです。今までは弁天門前広場を使ったり、御徒町駅南口のパンダ広場を使ったりしてやっていたのですが、今回初めてクロス地点というか、袴腰広場を会場にしてみました。その結果、すごくよか

ったのは、まちから一番近い広場なので、その様子がすごく見えるのですね。その様子が見えるということが、にぎわいの感じがすごく伝わってくるという形で、今まで広場をいろいろ使ってやってきましたけれども、ここが一番中心というか、イベントをやってにぎやかしているというのが一番見えてすばらしい場所だなと感じたというのが、今回の「シタマチ.ハロウィン」でここを使わせてもらった感想です。まちづくり推進部会でも、10個の場所を活用していくというパブリックスペースという意味では、改めて袴腰のパワーを感じたイベントになりました。

報告は以上です。

○事務局 委員、ありがとうございました。

続きまして、31ページを御覧ください。こちらは8月2日と3日に、不忍通りの三角広場におきまして、「しのぼずナイトテラス」が行われたものでございます。池之端仲町商店会、上野元黒門町会、しのぼずいけまち研究会による「いけとまちをつなぐ取組」の一つとして、東京都道における「ほこみち指定」に向けた社会実験となります。歩行空間3.5mを確保した上で、歩道上に滞留を促す施設やカウンターバー、演奏ミニステージが設置されました。近隣の水上音楽堂で行われたジャズイベントと連携し、回遊を促す取組でございます。今後は、本社会実験の内容を踏まえまして、都道の道路管理者である東京都建設局と警視庁で「ほこみち指定」に向けた協議を進められていくと聞いております。

32ページを御覧ください。10月19日及び20日に、不忍池周辺及び不忍通りにおきまして、いけとまちをつなぐ将来像の実現に向けた実証実験「池のほとりの本のみち」が実施されたものでございます。昨年に引き続き2回目の実施となる今回も、本をテーマに不忍界隈の書店が出店するとともに、一部の車道が歩行者に開放された空間が創出されました。今回は、不忍池側だけでなく、まち側にも界隈の魅力を伝える物販スペースが広がり、交差点を中心に物理的にいけとまちの距離が近づくことで、いけとまちの回遊性が向上されました。今後は、本社会実験を踏まえまして、さらなる検討をしていくと聞いております。

33ページを御覧ください。こちらは10月26日及び27日に、水上音楽堂と不忍池周辺において実施された「Peace of Light」でございます。こちらは上野観光連盟主催で行われております。こちらについては委員より御紹介いただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

○委員 このイベントは上野観光連盟としては第2回目の開催となりました。不忍池周辺、

そして水上音楽堂の中では、音楽に合わせたアーティストによるライブペイント、この写真にありますけれども、右側にあるスクリーンは、LEDのスクリーンを設置してライブペイントをライブで流すということ、それから不忍池をレーザー光線で照らしたりというようなイベントをしました。キッチンカーも今回は初めて J-WAVE さんとコラボして、J-WAVE さんの仕切りで、我々がいろいろと出店をするのと違って、簡単に言うと、いつもよりも少しおしゃれなお店がたくさん出店してくれて、ちょっと高級感のあるようなイメージになりました。

予算の関係もあって、光を当てられるスペースも限られていますし、様々な制約の中で非常に苦労しているイベントであり、認知度もまだ低いイベントであると自覚をしております。来年度以降、そのままで終わらせるわけにはいかないのです、今いろいろと試行錯誤しておりますが、照明デザイナーの石井幹子さんによる噴水前広場を舞台にした光のミュージアム、これは数年前から続けられているイベントなのですけれども、石井幹子さんたちとうまくコラボして、噴水前広場では石井幹子さんの光のミュージアム、下に下りてきて不忍池では我々が「Peace of Light」をやるといようなしつらえにしたいと考えております。

もう一つ、我々がどうしても近い将来に実現したいのは、都心の中でこれだけの池の空間があるということは、唯一無二の場所であり、すごいものを秘めたポテンシャルがあるわけですけれども、それを生かす中でドローンによるデジタル花火ショーみたいなものをぜひとも行いたいと思っています。ドローンに関しては、今日、国交省の方々もいっぱいいらっしゃっていますけれども、様々な制約があるとは思いますが、少しずつ緩和されている部分があるとお聞きしていますので、うまくその辺を打合せしながら、ドローンを使ったデジタルショーみたいなものができれば、もっともっと上野の魅力、認知度がアップして、もっと多くのお客様に来街していただけるのではないかなと考えております。

説明を忘れましたが、「Peace of Light」という名前ですので、世界平和ということをお話しています。このイベントを通じて、ウクライナ、ガザへの募金活動も同時並行して行わせていただきました。

以上です。

○事務局 委員、ありがとうございました。

続きまして、34ページを御覧ください。こちらは、10月27日に東上野四丁目におきまして「アートペイント」が東京メトロ様主催で実施されたものでございます。こちら

につきましては、委員の随行者様より御紹介いただきたいと存じます。よろしくお願いいたしますします。

○委員随行者 34 ページ、「まちなかアートペイント」の御説明をさせていただければと思います。

東上野四丁目では再開発に向けた準備組合が今年の3月に設立されております。弊社は事業協力者として地権者の皆様と検討を進めている状況でございます。その東上野四丁目地区の再開発に向けて、弊社としても初めての取組というところでございますけれども、東上野側を含むまちなかにぎわい、回遊性の向上と近隣との連携に向けまして、「ヒロバ化社会実験」「シタマチ.ハロウィン」「Peace of Light」「パンダバシピクニック」などのイベントと同日に、地区内の弊社所有の駐車場にてイベントを実施させていただきました。かなり近隣で新しいマンションなどもできておりますし、回遊性の向上、それから交流を育むという点も踏まえて、メインターゲットを来街者と少しずらしまして、主に低年齢のお子様、その親御様向けに、自由にお子様が絵の具でペインティングを行う段ボールアートを行う空間、それから人工芝、アウトドアチェアなどのファニチャーを配置した上で、キッチンカーを入れまして、御家族、友達同士でゆっくり過ごせるような空間を設置したようなイベントでございます。

当日は開始時間前からかなり近隣の御家族連れにお待ちいただきまして、終了時刻の間際まで途絶えずに参加者が御来場いただいております。御参加された方には、当日アンケートを実施しておりまして、主に近隣にお住まいで、徒歩または自転車で御来場いただいた御家族が多かったという結果がございました。そういった方からは、なかなか子供向けのイベントが多くないということで、かなり御好評の声も頂いております。

一方で、周りのイベントとも連携ということも意識して実施をしたところでございますけれども、当日はジュエリーブリッジ辺りを境に歩行者の流動がかなり分断されていたという様子が見られまして、当社のイベントと周辺のイベントのターゲット層が異なるという点ですとか、自転車で御来場された方も結構多かったというところで、ほかのイベントへの移動のハードルも感じられたというようなお声も頂いておりますので、イベント間の連携ですとか、回遊性の向上という面では、もうひとつというところだったなということも感じられております。

今後も当社としていろいろ周辺を盛り上げていく取組を進めていきたいと考えておりまして、まだまだ弊社としても取り組み始めたところでございますけれども、継続して実施



をさせていただければと思っております。

御説明は以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

続きまして、35ページを御覧ください。これまでの御紹介のとおり、令和6年度の10月に上野地区では数多くの社会実験やイベントが実施されました。その際に事務局が取組内容を一元的にまとめて情報発信したものでございます。

以上が、上野地区のウォークブルまちづくりの状況の進捗状況の御報告となります。

続きまして、36ページ～38ページを御覧ください。こちらは本年3月に策定し、翌月の4月からの運用開始を予定しております上野地区景観形成ガイドラインの概要を示したものでございます。こちらの資料は昨年12月に区議会に報告した中間のまとめの資料の一部でございます。

本ガイドラインでございますが、国立西洋美術館の周辺環境の保全と都市更新の両立を図りながら、世界遺産のあるまちにふさわしい景観を形成していくことを目的といたしまして、台東区景観計画のほか、都市計画マスタープランや上野地区まちづくりビジョンを踏まえまして、それらを上野地区の景観形成の指針として整理したものでございます。対象範囲は上野地区まちづくりビジョンと同じエリアとなっております。景観計画を踏まえまして地区ごとに整理いたしました配慮事項を示しております。内容につきましては後ほど御覧いただければと存じます。

続きまして、39ページ～41ページを御覧ください。こちらは上野地区における再開発等の情報でございます。

39ページを御覧ください。左側の図は築45年以上の建物を緑色で示しております。また、2016年以降に建て替えがされた建物を赤色で示しております。今後開発予定または開発可能性がある建物及び街区を青色で示しております。

上野地区に立地している建物の多くが築年数45年以上を経過しており、今後、建物を更新していく可能性がございます。特に中央通りの南側でございますが、赤色と青色が比較的多く集まっておりまして、近年、建物が更新されたことや今後開発等が行われていく可能性があることがうかがえます。

続きまして、今後開発予定または開発可能性がある建物及び街区の御紹介をいたします。

まず、ABAB上野店ですが、約80年の営業を終えまして、昨年6月末に閉店いたしました。これまでの歴史や立地特性の観点から、上野地区において一種のシンボリックな建物で

ございましたので、今後の動向について区としても注目しているところでございます。また、アパホテルにつきましては、中央通り沿いに台東区内で18棟目となるホテルを建設予定となっております、2028年に開業予定と聞いております。

続きまして、40ページを御覧ください。こちらは台東区に隣接する文京区におきまして、湯島三丁目北東地区で市街地再開発を含めたまちづくりが検討されているものを整理したものでございます。特に春日通り北側エリアにおきましては、既に地域が主体となった協議会が発足しており、具体的なまちづくり整備に向けて湯島三丁目地区のまちづくりの考え方が示されております。令和7年度中には基本方針を策定すると伺っており、台東区とのつながりや御徒町駅周辺等との連続性を意識したまちづくりが推進されておりますので、台東区といたしましても引き続き動向を注視してまいりたいと考えております。

次に、41ページを御覧ください。台東区では、東上野四丁目・五丁目地区のまちづくりの推進に向けまして、平成30年より関係者とまちづくり勉強会を進めてまいりました。また、昨年3月に再開発準備組合が設立されたところでございます。現在、区も加入しております再開発準備組合におきまして、他の組合員のほか、事業協力者でございます東京メトロ様、大林組様と施設計画等の検討を進めているところでございます。こちらにつきましては、東京メトロ様より説明をお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

○委員随行者 今、台東区様より御説明ございましたけれども、昨年3月に準備組合が設立されまして、約1年活動してきている状況でございます。地権者の方々と月1回程度会議を行いまして、今後想定しております施設計画等の準備をまさにしているというところでございます。現在、地権者の方々も約8割程度の御加入となっております、今後スケジュールをしっかりと進めていくという状況でございます。

以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

また、エントランス街区のまちづくりに合わせまして、区では警視庁様とともに旧下谷小学校跡地の西側部分と現上野警察署敷地を入れ替える土地区画整理事業に取り組んでいるところでございます。現在、旧下谷小学校校舎の基礎解体工事ですとか土壌入れ替えのほか、地区計画に基づく西側区道の拡幅整備に向けた検討を進めております。引き続き警視庁様や関係機関と緊密な連携を図りながら、本事業の円滑な推進に努めてまいりたいと考えております。

以上が資料2の説明でございますが、改めまして上野地区のまちづくりの推進に当たり

関係の皆様には多大なる御尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。

私からは以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

大変多様な活動が活発に行われていることが御理解いただけると思いますが、せっかくの機会ですから、御質問あるいは御意見があれば頂きたいと思えます。いかがでしょうか。

○委員 アートクロス広場のメンバーの中に入れてもらえることは可能でしょうか。というのは、そこが神域に通ずるメインの入り口ともなりますので、そのメンバーに入れていただけると大変ありがたいなと思っているのですけれども、いかがでしょうか。

○オブザーバー 前回のときもそんなお話を伺っていて、その後の御連絡ができていなかったのかと思えますけれども、ぜひ入っていただけたらとこちらも思っていますので、今日は事務局がおりませんが、検討して御返事させていただきたいと思えます。

○委員 ありがとうございます。

○座長 今のように、関連のいろいろなプロジェクトが動いていますが、必ずしも十分に情報交換だったり、意思の疎通ができていないところについては、こういう機会にぜひ皆様から御発言いただいて、強固なネットワークをさらにつくっていきたいと思っています。

ほかにはいかがでしょうか。

○オブザーバー 道路の通行止め等を伴うイベント、こちらにつきましては本日いろいろお話を伺いましたが、非常にうまくやられていて、私どもの上野警察とも緊密な連携を取っていただいておりますので、この場をお借りして御礼申し上げたいと思えます。今後も引き続きこのような感じで緊密にやっていただければというふうに思えます。

年に何回とか単発的に行っていくようなイベントに関しては、このようなやり方でやっていただければと思うのですが、将来的に中央通り全体を歩行者空間化していきたいというようなお話を聞いております。今イベント事は地元の方々主導でうまくやっていただいているというところでもいいと思うのですけれども、道路をなくしてしまうような議論になってくるとすれば、ぜひ台東区さん主導で、関係する行政機関を交えて対応していただくというようなことが必要かなと思えます。

地元の方々の思いを実現していくためにどうやっていくのかというのは、我々も行政機関の一部としてきちんと対応していきたいと思っておりますので、台東区さん、よろしくお願ひします。その際、この推進会議の専門部会である基盤整備推進部会を活用して議論していければなというふうにも思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○座長 ありがとうございます。

まちづくり部会と基盤部会があって、基盤の部会のほうは比較的行政の方がメンバーに入っていっちゃって、中長期的な話が多いわけですがけれども、今のような中央通り全体を歩行者空間化する、あるいは道路空間の再構成をすることになれば、基盤部会をうまく使って議論したらどうかという御提案ですが、台東区さん、いかがでしょうか。

○事務局 御意見を頂き、ありがとうございます。

まず中央通りにおきますヒロバ化社会実験につきましては、先ほど委員より御説明がありましたとおり、今回、主要な交差点におきましては大きな交通渋滞というのではなく、影響はあまり見られなかったということでございます。一方で、公共交通機関であるバスですとかタクシー、それから貨物車両ですとか周辺の駐車場を含めました各施設への影響など、今後、検証をしていく必要があるかと考えております。

現在は道路空間の活用可能性を検討している段階でございます。来年度も上野まちづくり協議会様と協議を重ねながら取り組んでまいりたいと思っておりますけれども、今後、方向性が一定程度固まってくるかと思うのですが、その際には道路空間の再編、歩行者空間の充実等々も考えられますので、こちらにつきましては関係機関の皆様ですとか地域の皆様と丁寧に協議をさせていただきたいと存じます。その際にはどうぞよろしく願いいたします。

○座長 どうぞよろしく願いしたいと思っております。

○委員 今に付随してなのですがけれども、今日参加している中で唯一、上野の山の上の側の人間として、観光バスが東博さん、上野公園に来ている中で、コロナ禍は静まっておりますけれども、観光バスが上野の山の上に大分増えてきておりまして、また上野駅の公園口が通れなくなった影響で、言問通りから寛永寺と藝大の間を通過して、国際図書館のところを通過して今つくっておりますアートクロス広場のところを曲がってというような大分狭い部分のところを通過してきて、上野駅のところ観光バスの駐車場等々に行くというような形のバスも増えてきている中で、そこで観光バスがあふれていくような状態の中で、近隣で付随している寛永寺の系列の寺院さんもありまして、そういうところもいろいろと創意工夫等を今後台東区さん中心に検討していただければ大変ありがたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

○座長 杜のほうの交通についても、先ほどアートクロスの話がありまして、東博さんの前の道路空間を再編成したらどうかというのを前にも一度議論させていただいて、観光バ

スの駐車場については、区のほうでいろいろ努力されましたけれども、今のようなルートですね、そこへどうやって入っていくのかとか、バスをどうマネジメントするのか、その辺は区のほうでは今取組をされていらっしゃるのでしょうか。

○事務局 事務局よりお答えいたします。

今、委員より御指摘のありましたとおり、今年度、区におきましては上野公園北部エリアのまちづくりイベントというものを、このエリアの各施設の皆様と連携して実施させていただきました。その際に東京国立博物館様の前の都道452号、その東側・西側につながる区道62号・63号の車道を歩行者に開放して、回遊性向上というものを試行的に実施させていただいたところでございます。

交通量調査等も実施させていただきまして、ここの車両を通行止めにするによって、かなり交通への影響というものがあることが見られましたので、こちらにつきましては改めまして地域の皆様と意見交換を重ねながら、将来像の検討ですとか、回遊性向上に向けた取組について議論させていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

現状、タクシーさんとかがちょっと止めて休んでいらっしゃるような方も多くいらっしゃって、そういう空間をもうちょっと歩行者のためにうまく使えないのかという議論が前々からあったわけですが、今のお話はそれに加えてバスのルートですよ。どこからバスを入れてくるかというのに、必ずしも周りの道路が全部整っているわけでもないで、観光バスの誘導、マネジメントの仕掛けが、どんどん観光客が増えてきている中で要るんじゃないかなという御指摘だと思うので、観光バスとかは、特にインバウンドでしようか、最近だと。今そういう状況に関しては、どこかで情報を持っていらっしゃるのでしょうか。まだそこまでは皆さんの中でつかまえていないかな。

○事務局 観光バスの状況についてですが、詳細なデータについては今持ち合わせていないのですが、コロナ禍以降、観光客、インバウンドの方々を含めまして、かなりの数の方々の上野公園の周辺、上野地区にいらっしゃるという認識はしております。

観光バスについての対応ですが、資料1の「これまでのビジョン推進会議の振り返りについて」の6ページになりますが、基盤部会におきまして、「回遊性向上に資する機能の導入」というところで、観光バスについて御意見を頂いたところでございます。その中で、まち側に観光バス（乗車・降車）を拡充というような方向性も頂いたところでございます。

今年度につきましては、こちらに関する議論というものはできていないところではありますけれども、今後、観光バスの対応も含めまして検討をさせていただければと考えております。

○座長 先ほどの歩行者交通を重視した道路の再編成をするというのとも当然関係しますので、基盤部会が中心になるのでしょうか、少しデータも整理していただいで議論していただけるといいと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。ほかにはいかがでしょう。

○委員 今の交通で付随するものですが、町なかでもいわゆるワンボックスカーの運転手つきの車、多分あれはいわゆる白タクだと思ひますけれども、特に中国系のドライバーが、お客さんも中国人ということで、たまに報道もされていますけれども、町なかの至るところに傍若無人な止め方をしてお客さんを下ろして、ちょっと注意すると非難し返すというような、そういったものが上野周辺でもしょっちゅう見られますので、この辺は警察の取締りもいろいろ大変だと思ひますけれども、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○座長 上野の問題だけではなさそうな気がしますが、結構上野にもいっぱい来ているということですね。ここは警察の皆さんともよく協議しなきゃいけないところでしょうね、きっと。ありがとうございました。

○オブザーバー 交通の関係の流れで、ウォークブルなまちづくりにいろいろ取り組まれていて、この社会実験とかも、先ほど委員からも御説明いただきましたけれども、地元の方、来街者も喜んでやられたということで、事前に準備とか、そういった企画なども非常に努力された結果なのだろうと思ひているのですが、私、ほかのところで、道を止めるというのではないですが、二車線を一車線にする社会実験だけでも、先ほど委員がおっしゃったように、右折するところがすごく混んじゃってみたいなこと、地元の人はいいのですが、道路を使う人が文句を言うパターンが結構あって、地元の方もちろん連携してやっけていただいでいると思ひますけれども、道路利用者からの反発みたいなものも結構あったりするので、それをどうするというのは社会実験を根気強く重ねて、上野はこういうまちなのだと、歩行者優先なのだとドライバーに納得していただいでほかにも回っていただくとか、そういうことなのかもしれないのですが、来年度も3回目の社会実験をされて、その社会実験の結果を踏まえて今後どうするかということだと

思うのですけれども、そのままとんとん拍子に進めばいいのですが、反対が多かったとしても根気強く取組を続けていただいて、こういったウォークアブルなまちづくりを進めていただければと。私、岡山市でやっていたときは一車線化するだけで7年もかかったのですが、状況が地方都市とは違うと思うのですが、すぐにはなかなかうまくいかなくても根気強くやっていただければ。そういう中で先ほど警視庁さんからもありましたけれども、道路を再編するに当たって台東区役所の御尽力というのが大事になってくると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

○座長 ありがとうございます。実験のときには、そういう声はどこから上がってきていますか。

○委員 私が把握する中ではなかったという。

○座長 上野に来る方は、先ほどの状況を見ると電車でお越しになっている方が多いから、通過型の車がどうかということなのかも分かりませんがね。ただ、ほかも混んでいないから、回って下さいということで一応済んではいるわけですね。

○委員 昔と違ってナビゲーションからの情報が入って、ルーティングしてくれるというところも随分違ってきているのかなというような認識です。

○座長 ありがとうございます。本当に全部止めるときには多分駐車場経営の方とか、そういう方々が生活そのものに関わってきちゃうので、全体をうまくやらなきゃいけないということになりますよね。上のほうにはJRさんが経営しているような駐車場もありますけれども、うまくコントロールを全体で回して、こういうまちだというメッセージをうまく出せばいいですね。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。先生方もよろしいですか。

### (3) 来年度以降の上野地区における主な取組予定について

○座長 これまでの取組については、かなり活発に動いているということを経験できたと思うし、最初に区のほうでお話がありましたが、これをより継続的な形にしていくためにも、応援団のようなものを官民連携でしっかりとつくって、そこにいろいろな情報、プラットフォーム、あるいは活動の支援をやるような、資金的な面も関係するのでしょうか。そういったものをこれからつくっていきたい、杜まち応援団をつくっていきたいということで、今動いていらっしゃる様々なワーキンググループでやっていらっしゃるこ

とともにも多分そういう意味では、この委員会の下に基盤部会があって、そのワーキングでやっていただいているのですけれども、素直にいけばそちらのほうに移行しながら、技術的に動けるようになってきて、そこが様々なデータをうまく集約し、次の戦略を練るというのでしょうか、そういう場面に使っていただけるといいと思うので、これからの仕組みの話として、3番目の話題、これからの方向性に関して取組予定を御説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

#### <事務局より【資料3】1枚目について説明>

○事務局 来年度は寛永寺様の創建400年を迎える節目となっております。10月に根本中堂に天井絵奉納など各種イベントが開催される予定でございます。併せて東京国立博物館では江戸大奥展が開催されるなど、寛永寺にまつわるイベントがめじろ押しとなっております。また、上野観光連盟では、今年度に引き続き四季折々のイベントが開催される予定でございます。

ここで、寛永寺創建400年に係る内容について、寛永寺様より御紹介いただきたいと存じます。委員、よろしくお願いいたします。

○委員 いよいよ今年になりますけれども、今、東京国立博物館さんが建っていらっしゃる場所に初めて寛永寺の住職の住まいが造られてから400年ということで、全体の上野公園の中にいろいろな伽藍が整ってというわけではなくて、本当に最初にそこが造られてから400年というような形で、今年400年を迎えるような形で今進めさせていただいております。

今御説明いただきましたとおり、10月10日に400年を祝う法要を執り行うような形で現在進めております。また、今回、東京国立博物館さんに御協力いただきまして、平成館で大奥展をしている最中に、本館をお借りしまして寛永寺展を開催するような形を今のところ整えております。期間は今年の7月8日（火曜日）～8月31日（日曜日）まで寛永寺展を開催するような運びで、東博さんと今のところ調整させていただいているような形になります。10月10日が終わりました、台東区さんに御協力いただきまして、10月18日（土曜日）、19日（日曜日）に、台東区さん主催で寛永寺の根本中堂を利用してシンポジウムを計画しております。

今現在、文化庁さんの日本博で提携事業の補助金を頂きながら事業を1つ進めておりま



して、上野公園の中に伽藍が整っていた時代の部分をCGで復元する作業を今のところ進めております。そのCGで復元したものをVR・ARで見られるように整えているような形になります。アプリでそれを作ろうとしますとインバウンドの方に利用していただけないということがありますので、Web版で作成しております。QRコードを読み込んでいただければ、寛永寺の歴史をひもときながら伽藍が見ていけるような形で制作しております。みはしさんも飾っていただいているのですけれども、寛永寺の浮世絵の根本中堂の上野公園のところの部分におきまして、中心の根本中堂のCGをこういうふうに変換して見られるような形で、パソコン上でも、実際にいらっやってスマートフォン越しで建物を背景にして写して、それをSNSで拡散できるような仕組みづくりをというふうに思っております。前はツアーを創生しまして、ツアーの方向けと考えていたのですが、ふらっと上野にいらっやった方にも体験していただきたいと考えまして、JRさん、また台東区さんと協議をさせていただきながら、QRコードを読み込んでいただけるような場所を少し置かせていただければありがたいなと考えております。

今回、大変ありがたいことに、ハリウッドで真田広之さん主演の『SHOGUN 将軍』が大変評価を受けて「SHOGUN」という名前が大々的に広まっている中、NHKの大河ドラマでは『べらぼう』が放送されておりますので、そういう機運も高まっている中で、寛永寺と上野公園、また上野のまちの皆様方と協力しながら、上野に来た方が回遊していただけるような形で、このCGのほうも、上野観光連盟さんとお話し合いをさせていただきながら、Web版を見ながら上野公園の中を歩いて上野のまちに行けるような準備を進めているような形を整えていますので、今カルチャーツーリズムという名前が広まっておりますけれども、せっかく上野に来ていただきましたので、上野の歴史を学びながら上野を散策していただいて、いろいろなところを回っていただけるような工夫を、それぞれの皆様方と御協力しながら今後も進めていきたいと思っております。方々すみませんけれども、よろしく願いいたします。

<事務局より【資料3】2枚目について説明>

○座長 ありがとうございます。

(4) 意見交換

○座長 残された時間はわずかではありますが、せっかくですから、この2025年～2027年あたりまでに向かって、どういうことを皆でやっていくべきか、ぜひ御意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。

さっきの寛永寺さんのいろいろなイベントについて、なるべく詳しく情報を皆さんと共有したほうがいいですね。それぞれの組織でいろいろなことをお考えになるときに、「シンポジウムっていつやるの?」とか、何のイベントがいつ起きているのかということをちゃんと理解した上で、どこで頑張ろうかという話をおやりになるのほうがいいですね。アートクロスも、せっかく出来上がるので、そこも使ったらもっと全体に広がってくる。できれば、まちのほうでも寛永寺さんと御縁があるものもやっていただくと、杜とまちをつなごうというのが我々のずっと言ってきたことなので、銀座線は割とまちのほうに近いところにあるので、2年後には杜のほうでも銀座線の100年を取り上げた展示やイベントやらをうまく企画していただけるといいと思うのですが、銀座線の100年って、メトロさんは考えているのですか。

○委員代理 主なトピックで2027年に銀座線100周年を取り上げていただいております。御記載いただいておりますとおり、2027年12月30日をもちまして、東洋発の地下鉄として上野－浅草間が開業しまして100周年を迎えます。これまでを振り返り、ステークホルダーの皆様へ感謝の気持ちをお伝えする各種イベント等も今後企画していくことを考えているものの、現在まだ具体的なものは検討中でございますので、今後、こちらに御参加の皆様や、地域の皆様にも御相談させていただくことも多々あるかと思っておりますけれども、その際はぜひ御協力を賜ればというふうに考えてございます。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

今回、寛永寺さんがおやりになろうとしていることを契機にして、杜とまちでそれぞれいろいろなことを考えられて、そのことが情報として共通に御提供できる。多分それが先ほど言っていたプラットフォームのベースになるようなもので、そこに組織化したものが例えば2026年にちゃんと出来上がると、そこをベースにして2027年のイベントがもう一度違う形で組織化される。多分そういうプロセスのような気がしますがね。ですから、この3年間はとても大事なプロセスで、ぜひまちの皆さんには寛永寺さんの400年をどうやって使うかというか、言い方は悪いですが、受け止めるかというこ

とについて企画をいろいろ練っていただいたらいいと思うし、逆に杜のほうの皆様には、2027年の銀座線の開業を、杜のほうでも企画できないかということをお願いできないかなと思います。それをつなぐところに、先ほど官民連携と言っていたプラットフォームのようなものが介在して情報を共有するような仕掛けをつくっていく。最初は委員がやっていらっしゃるところが中心になっていただかないと動かないとは思いますが、そういうようなステップを踏んで、だんだん杜とまちがつながって行って、一定の形ができると回り出すというのでしょうか、そんな気がいたしますけれども。

皆さんからも御発言を頂きたいと思います。いかがでしょうか。

先生方は何かありますか。これからの活動に関して。

○委員 私がお手伝いさせていただいています上野広小路ヒロバ化実験は、まちづくり協議会さんのほうで三部作、3か年で3区間をやっていこうということで、今2区間が終わったところでございます。

先ほど御指摘もあったように、まずまちのほうでこういうことをやりたいということでイベントとして取り組んでいったものを、どういうふうに行政として生かしていただくかということをお指摘いただきましたけれども、恐らくこのヒロバ化実験にとりましても来年の2025年度は非常に重要な年で、三部作がある意味では完結をいたしまして、それから後、一体どういうことをしていこうかということで、こちらのグラフには「将来像の詳細検討等」と書いてあるのですけれども、恐らく次々年度ぐらいから将来像の検討等というのを3年間の実験を受けてどういう体制で、これは先ほどの交通の話もありますし、こういった公共空間の活用というのをどういう体制で、どういうエリアマネジメント、エリアプラットフォームの体制で協調して使っていくのか、そういうことになってまいるかと思うのですけれども、こういった社会構造と空間構造というのが同時に移行していくといえますか、新しく再構成されていくということがうまくいきますと、まちは公共空間だとかエリアプラットフォームの体制を使って活発なまちづくりが進んでいく。そういう認識を持っておりますので、先ほど先生からもあったように、この3年が非常に重要。特にこの実験の成果が一通りそろそろ25年の振り返りあたりが非常に重要になってくると思っております、そういう流れをこれからもつくってまいりたいと思っております。

○座長 多分ターゲットがあったほうが、こういうのはやりやすいので、2027年の銀座線100年のときにどこまで頑張れているか。そこが完全でなければ、2033年の上野駅開業150周年のときにはばっちりできるとか、皆さんでターゲットをある程度持ち

ながらやっていただくといいんじゃないかなと思います。頑張っていたきたいと思いません。

○委員 今回の資料で大分まちのそれぞれの動きが可視化されて盛り上がってきたなということを強く感じました。コロナ禍があったのであれなのですけれども、全然進まないなとフラストレーションをためていたのですが、今日の資料で改めて見て少し安心しました。

次年度、上野版エリプラなるものをどう育てるの前に誕生させなければいけない、それが一番大きな課題かなと思いました。エリプラそのものが、いろいろな活動をリーダーシップを取ってやっていくという感じでは多分なくて、個々のまちの動きから相乗効果を生み出すとか価値を生み出させる、そういう仕掛けがエリプラの機能かなと思っているのですね。当面、お金は行政が出してくれると思われるのですけれども、行く行くはお金の問題も考えなきゃいけないのですが、当面は誰がという担い手のところとノウハウを蓄積していかなければいけないなど。寛永寺創建400年ということで、それを主軸にどうエリプラがまちの動きをコーディネートしていけるのか。ある種の実験をしながらノウハウを蓄積していくということですので、早々に動き始めて、まずはエリプラの種をつくっていくところから早々にスタートしなければいけないなど改めて感じました。ありがとうございます。

○座長 ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、寛永寺さんの400年のイベントの情報をまず共有して、まちでは何をやろうとしているのか、寛永寺さんは何をやろうとしているのか、あるいは博物館は何をやろうとしているのか。そういう情報が出てきて、furariやら何やらを使いながら多分いろいろなことを考えるのでしようけれども、その結果として活動をちゃんとやってよかったねというのがあって、エリプラをちゃんと皆が認めて、そこに情報をちゃんと入れなきゃいけない。入れるとまちとしていいことが起きるというか、でっかいイベントのスケジュール表はとても価値が高いと思っていまして、前にも作っていただいたときに「これですよね」と思ったのですね。皆が情報を共有できること。今回まだ十分ではないと思うので、ぜひ関係する方のほうで、実はこう考えているんだよというのを区のほうに取りあえず言うしかないですよ。今エリプラとかいろいろ言っているけれども、取りあえずは区が情報の窓口になりますので、区のほうにぜひここでやるというのを言っただいて、このスケジュール表をどんどんブラッシュアップして行って、そこに連携が見えてくるような仕方と情報をどうやって発信するのかというのも、これは一緒にやったほう

がいいのか、むしろ違うほうがいいのか、いろいろな作戦があると思いますので御検討いただけるといいと思います。

皆さんのほうから何か御発言がありますか。いかがでしょう。

特によろしいですか。あとはやるだけという感じですか。

とてもいいタイミングで、そういう意味では400年が来て、銀座線が来る。杜のほうのイベント、まちのほうのイベントが、それぞれいい節目を持っていて、そこで今回のようなプラットフォームの組織の議論が出てきています。実は前の全体のビジョンの中では、いわゆる短期的なという部分なのですよね。2020年代の戦略としては、そういうのが要るんじゃないか、そういうところが節目になればいいんじゃないかということで、中期的なところでは2033とか2032の駅100年みたいなこととか150年とかって、もう一つ先はここだと。このときまでにしっかりしたネットワークと情報の共有化ができた上で、ちょっと基盤も含めてまちを変えられないかということが出てくると、上野のイメージは大分変わると思います。ほかでも実はこういうイベントカレンダーみたいなものをつくらなきゃいけないねと、あちこちでいっぱい出ているのです。エリアマネジメントの活動が動き出していることもあって、ばらばらじゃまずいねというのをあちこちで考えようとしているので、上野が先行して東京の先進事例として進んでいただければいいなと思います。

○事務局 座長、ありがとうございます。

本日の議事は以上でございます。今、皆様方から頂いたとおり、杜まち連携におきましては、情報共有、それから一元的な情報発信をいかにしていくかというのが課題かなと改めて認識したところでございます。また、来年度が2020年代の後半ということになりまして、先ほど座長からありましたとおり、中期以降ですが、新たな都市空間の創出ですとか、都市機能の強化というフェーズに入ってくるということになります。2020年代後半、来年度からですけれども、様々な検討をより深めてまいりたいと思います。その際には皆様方に御協力をいただくことが多々あるかと思っております。その際にはどうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

次回ですけれども、同様の時期に開催を予定しております。日程が決まり次第、改めて通知させていただきます。

5 閉 会

午前11時55分 閉会